

坐骨・陰部神経叢

坐骨神経叢(Pl. ischiadicus)

これはL₄~S₃の前枝からなる強大な神経叢であり、上殿神経、下殿神経、坐骨神経等を出す。

上殿神経：中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋の大腿外転筋に分布する。従ってその機能は大腿を外転させ、また内旋させる。背臥位で屈曲した膝の外転力を見る検査がより正確である（大殿筋などの外旋筋の混入を減少させるため）。

下殿神経：大殿筋を支配し、また上双子筋、内閉鎖筋、下双子筋、大腿方形筋と共に大腿外旋筋を形成する。これらの筋は大腿を内旋させて、または腹臥位で検査する。坐骨神経の機能については後述する。

陰部神経叢(Pl. pudendalis)

これはL₂~S₅の前枝から成る小さい神経叢である。坐骨神経叢の下につづき、骨盤の後壁に接し、骨盤内臓、会陰筋、外陰部の皮膚に分布する。

陰部神経 (N. pudendus)：陰部神経叢最大の枝で、内陰部動静脈と共に前下方へ向って走り、骨盤の下壁を貫いて会陰部に行く。筋枝は会陰筋、皮枝は会陰、外陰部の皮膚に行く。

臨床

坐骨神経叢傷害と共に侵されることが多い。運動枝の麻痺により、尿・大便失禁、排尿困難などを来し、また知覚刺激状態として肛門、会陰部の神経痛などを来しうる。

尾骨神経(N. coccygeus)：退化した小さい神経で、尾骨群と尾骨附近の皮膚を支配する。

尾骨神経痛(Coccygeal neuralgia)：女性に多く尾骨の先端の圧痛、疼痛がある。

